

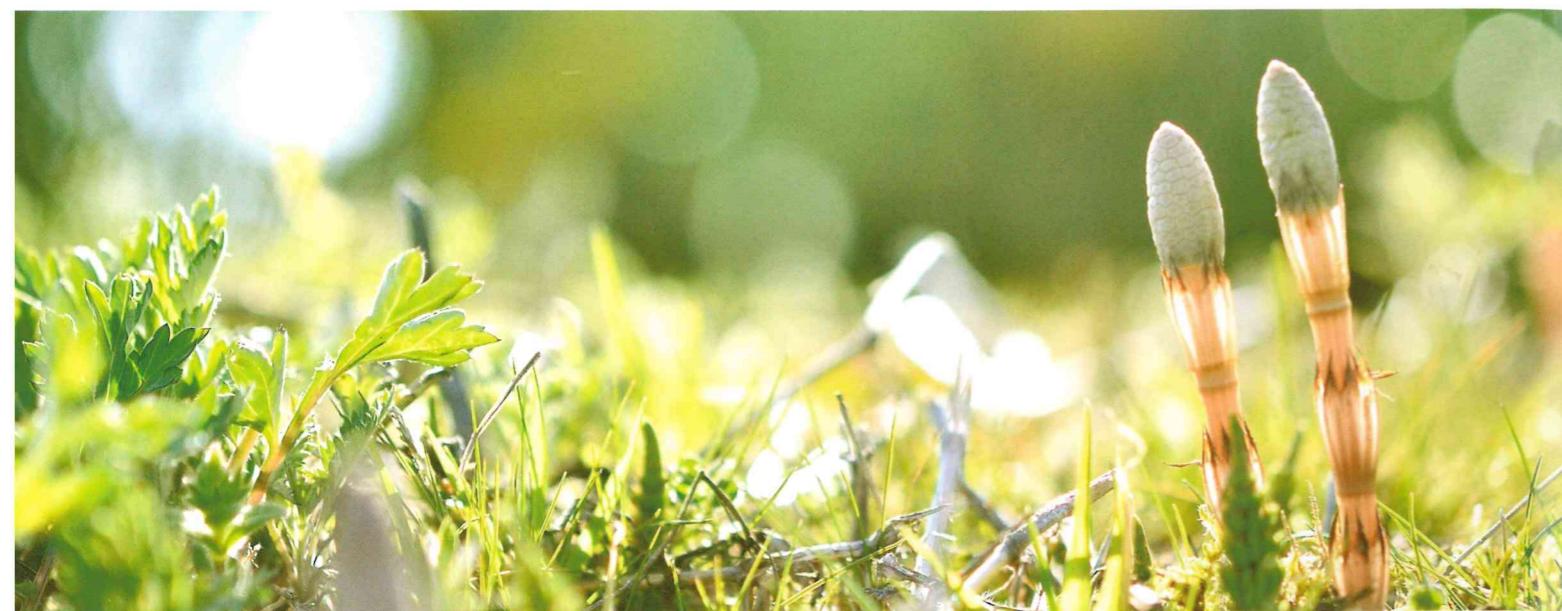
健やかに生き、安らかな最期を

Living Will

リビング・UIL

人生の最終章は
自分で書く

【基調講演】から
ノンフィクション作家 柳田邦男さん



2020年
4月発行
No.177

Living Will No.177 2020年4月発行

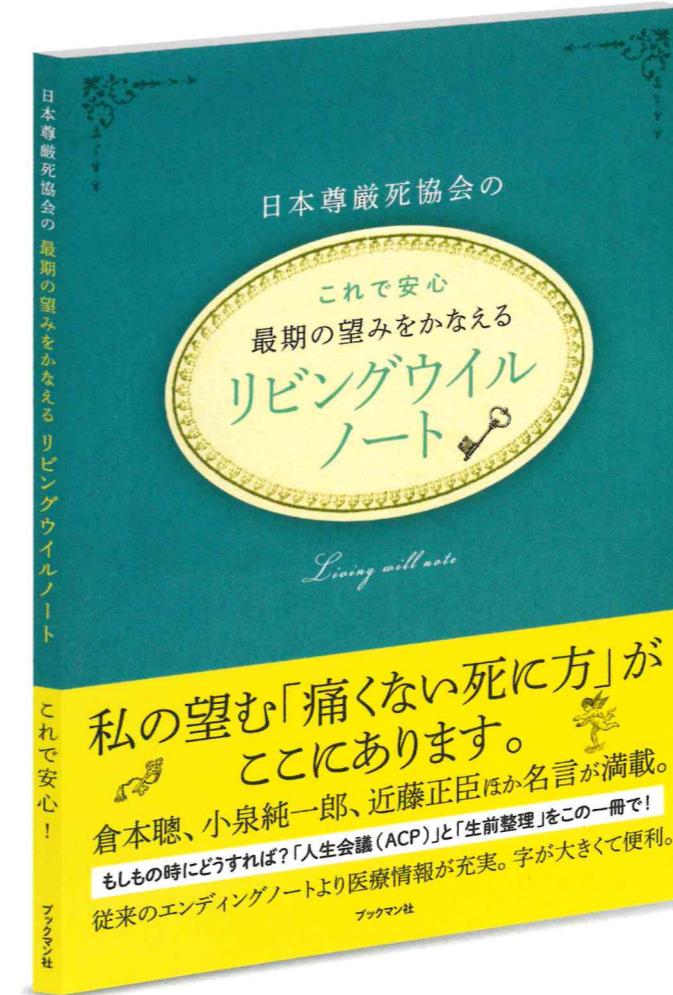
発行 一般財団法人日本尊厳死協会 編集 協会会報編集部 デザイン FROG KING STUDIO 印刷 JPビズメール株式会社

- 2019年「DJ遺族アンケート」の結果
- 連載・電話・メール医療相談から
- 連載「四季の歌」春の小川

日本尊厳死協会の出版案内

最期の望みをかなえる リビングウイルノート

私の望む「痛くない死に方」がここにあります。



好評
発売中!

主な内容

- 尊厳死協会の会報「Living Will」のインタビューに登場された、小泉純一郎・元首相や脚本家の倉本聰さん、俳優の近藤正臣さん、秋野暢子さん、仁科亜季子さん、作家の北方謙三さんの名言を再録。
- 延命措置やACP(人生会議)など医療情報の解説や尊厳死協会の役割などのほか、「私の病気の記録」や「もしもの時の確認メモ」(健康保険証や基礎年金の番号など)、「終末期の最期の過ごし方の希望」「食べることができなくなった時の希望」……など、書き込むページや欄もたくさん詰まったエンディングノートの決定版。
- 「旅立ったあとで~大切な人へのメッセージ」や「旅立つ前に会っておきたい人」、「葬儀に呼んでほしい人」を書き込むリストの欄も充実

発行:ブックマン社
定価:1100円(税別) A4判104ページ

この「リビングウイルノート」には、
あなたの「リビング・UIL」を入れるスペースがあります。
是非お手もとにセットで!!
もしもの時にそなえ、こころの「生前整理」を

協会事務局でお求めできます。1100円(税・送料込)。書籍名、お名前、住所、会員の方は会員番号を明記。代金を現金書留または定額小為替か切手相当額を同封して協会事務局(〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル501)宛に。

「人生の最終章」は自分で書く

第8回日本リビングウイル研究会が、昨年の11月30日に都内で開かれました。テーマは「物語としての人生会議——リビング・ウイルを入口に」。

期せずして「いい(11)看取り(30)」にかけた「人生会議の日」でした。

その基調講演で柳田邦男さんは「人生の最終章は自分で書くんです」と、

熱心な聴衆に切々と話されました。これはその抄録です。構成／会報編集・郡司武 写真／上坂誠

みなさん、こんにちは。今回、「物語としての人生」という題での基調講演のお話をいたしました時、私は、うれしい気持ちになりました。というのは、どんな人の人生も、たとえ40年であれ80年であれ、波乱に満ちている、人間が一生を生きるということは大変なことである、ということは、作家として一貫して見つめてきた「人生の姿」なんですね。

生前親しくしていただいた臨床心理学者の河合隼雄先生も、「人は、あるいは人生は物語らないと分からぬ」と、よくおっしゃっていました。

みなさんは、こんにちは。今回、「物語としての人生」という題での基調講演のお話をいたしました時、私は、うれしい気持ちになりました。というのは、どんな人の人生も、たとえ40年であれ80年であれ、波乱に満ちている、人間が一生を生きるということは大変なことである、

ということは、作家として一貫して見つめてきた「人生の姿」なんですね。また。いろんな悩みを抱えて生きている人に向き合つてこられた心の専門家の間論と、作家として多くの方とお付き合いする中で湧き出でた私の問題意識とが重なり合つたような気がして、自信を得ました。「人生は物語らないと分からぬ」んですね。

「人生の文脈」のなかで死を位置づける

日本尊厳死協会が「リビング・ウイル」というモデルを作つて、多くの人がそれを自分の意思表示として医療者に手渡すということ



柳田邦男さん（ノンフィクション作家）



柳田邦男さん

やなぎだ・くにお／1936年生まれ。東京大学経済学部卒業。NHK社会部記者を経て作家に。「死の医学」への日記」「新・がん50人の勇気」など死と向き合った作品が多い。心、いのち、生き方の問題に深く取り組む、日本を代表するノンフィクション作家の一人。

が普及してきました。でも、そのリビング・ウイルの箇条書きを見ると、ややもすれば、ほとんどの人が「死ぬ瞬間」、つまり痛みや苦しみがなく穏やかな最期でありたい、という“瞬間風速”的次元で「死」をとらえている傾向が強い。だけれど、人間にとつての死は、果たしてそういうものであろうか。死ぬ瞬間の痛みや苦しみや不快感や不安や、そういうものだけで死をとらえるべきものであろうか」と、私は疑問を感じてきました。

リビング・ウイルで大事なこと

が普及してきました。でも、そのリビング・ウイルの箇条書きを見ると、ややもすれば、ほとんどの人が「死ぬ瞬間」、つまり痛みや苦しみがなく穏やかな最期でありたい、という“瞬間風速”的次元で「死」をとらえている傾向が強い。だけれど、人間にとつての死は、果たしてそういうものであろうか。死ぬ瞬間の痛みや苦しみや不快感や不安や、そういうものだけで死をとらえるべきものであろうか」と、私は疑問を感じてきました。

死の迎え方にに関する日本人人々の問題意識が大きく変わり始めたのは、1980年代だと私はみています。1970年代から「がん死」を中心にはじめました。

それを象徴的に示しているのが、闘病記が盛んに書かれるようになつたことです。それ以前は、作家とか評論家とか学者とか著名な方が闘病記を書いていました。ところが80年代になると、職業や男女のいかんに関わらず、しきりに書かれるようになる。そして90年代初めに、私が編集責任者になり、「同時代ノンフィクション選集」12巻を編集しました。

その年表を見ますと、70年代は、闘病記にしろ、医療者の看取りの記録や医療のあり方にしろ、表はスカスカです。それが80年代にな

その第1巻は、従来のノンフィクションの通念を壊して、「生と死の現在」というテーマで闘病記を編集しました。さらに巻末に戦後の作品年表を付けました。私は医学、医療、生と死、闘病記などに強い関心を持つて70年代から仕事を始めたのですから、そういった関係の本や資料を収集しており、それをもとに年表を作成したわけです。

その年表を見ますと、70年代は、闘病記にしろ、医療者の看取りの記録や医療のあり方にしろ、表は

ると、びっしりと表が埋まつてき
て、90年代になると、さらに埋ま

変化ですね。死に関する本が書かれるということはそれを読む人がいるわけです。出版のビジネスとして成り立つ。つまり闘病記など「死に関する本が読まる」という時代になってきたわけですね。こういう時代を、私は「死の社会化の時代」と名付けました。それまでは、家の中や病院で一人一人が家族に看取られてひつそりと死を迎えていました。「死」は、きわめてプライベートな出来事であつたわけです。

それが、どう生きたか死んだか

書くことで生まれる
を社会に発信していく、社会で共
有していく、そういう時代になっ
てきました。それを示すものとし
て私は、「死の社会化」というキ
ーワードを作ったんです。

脈を作ることになるのですから、混沌としたカオス状態を整理することになります。心が整理されもし文章にしなければ、依然としてカオス状態が続き、苦しみ続けることになります。

たとえば私家版であっても、本を出すと誰かが読みますね。反応があるわけです。反応があると自分を客観視できます。そういうなかで、死を迎えるにあたつて人生への納得というものは何によつて得られるのか、それを見つけ出ししていくことになるんですね。

私は、どんな人でもその人生を俯瞰的にみると、大河ドラマか長編小説に匹敵すると思っています。高さや深さはともかく、山あり谷ありの人生です。大河ドラマあるいは長編小説であるからには、いくつもの「章」がありますね。多い人なら20章もあるかもしれません

「どんな人でもその人生を俯瞰的にみると、大河ドラマか長編小説に…」

そうだったのね、いろんなことが
それで分かってくる。私の人生は
これからが本番なのだ。これまで
の一切は、これからへのよき準備

「私はリンゴの木を植える」とはマルティン・ルターの言葉とされています。「たとえ明日、地球が終わりでも私はリンゴの木を植える」というものです。明日、自分は亡くなるかもしだれなけれど、たとえ今日1日のいのちであっても、いのちの永遠性を信じて、リンゴの木を植えるというのです。自分のいのちを最後の瞬間まで精

が持てる「人生の最終章」になるのではないかと私は思っています

「これからが自分の人生の本番」

私がこれまで取材したり書いたりした人たち、あるいは出版された闘病記などの中から、この「人生の最終章」についてみていくたいと思います。

1979年に出版された、肺がんで亡くなつた40代の原崎百子さんの手記です。在宅で闘病しながら、肺がんが進行する中で日記をつけます。まだ「終末期医療」という言葉もない時代でした。がんが再発し、もう治療法がないという状態になつた時、「主人が『再発転移し、予後は厳しい』と告げました。それに対し百子さんは、

「ありがとうございます。ありがとうございます。良く話してくださいわね。可哀そ

うのは多くの「章」があるはずです。振り返ってみると人生とてていますが、当たり前ですが、すべての章を意識して書いてきたわけではありません。

しかし重い病気になつたり高齢になつたりして、残された日々が長くても1年あるいは半年となつた時、それからの人生の「最終章」は自分で書いていくことになります。みなさん、よろしいでしょうか。書くとは何か――。それは生きる上で何が自分にとつて大事なことなのか、を確認することでもあります。「あれもしたい、これもしたい」と人間は欲が深いものですが、たとえば20くらいのうち「これだけは」というのは2つか3つくらいではないでしょうか。書くことで絞り込んでいく。そうすることで、自分にとつてより納得感

のではないかと私は思っています。
「これからが自分の人生の本番」

だつたのだ」と書いたのです。「私の人生はこれからが本番なのだ」とは、「自分自身の人生を一つの物語としてとらえ、これから意識して最後の章を書いていくんだ

り返つてみると、戦後の20年間くらいは戦争体験や空襲体験が書かれました。それがだんだん少なくなり、それに代わって闘病記がしきりに書かれるようになりました。1人で悶々と病に苦しんでいるのを多くの人に知つてほしい、病気で気づいたことを誰かに伝えたい、自分自身が死を受け入れてどう生きるか生きたかの足跡を残したい、生きた証を確認したい、患者の辛さを医療者に知つて欲しい……。こうした様々ニーズがあつて、闘病記が書かれるようになりました。あるいは、亡くなつた方に寄り添つたことを身内の方が追悼記として書くということも出てきました。人生の最大のイベントである「死」を前にいかに生きなおすかという点で重要な意味を持つことになります。

最近は、レジリエンスという言

では、この闘病記とか追悼記が、なぜ生きなおす力になるのか。「余命1か月」とか「半年」と言われて、どのような生きなおす力になるのでしょうか。私の闘病記の研究では、人は、書くことによって、ただ絶望や悲しみや鬱的状態の混沌の中で死を迎えるのではなく、残された日々を最大限有効に生かして納得のいく形で人生を締めくくりたい、と思うようになる例が多いのです。

人は、大事な人を失うとか自分が回復の見込みがない病気になる

主人が脳梗塞で倒れたとか、突然進行がんが発見されたとかですね人が、そういう混乱状態の中で、



一杯全うするという確固とした意

思表示ですね。

このように在宅でケアを受けな

がら、ベッドで子どもたちを絶え

ず視野に入れて日常を淡々とこな

していく。母としてやるべきこと

をやつしていく。辛い病状であつて

も、最後の日々をしっかりと生き

ていく。なんとみごとな生き方で

しょう。

自分で「人生の最終章を書く」

という傾向は、1980年あた

りからポツポツ出でてきます。そし

て2000年代になると、こう

した問題意識が社会的に広まつて

(2)「人生の最終章」の生き方への気づき

- ・人生は山あり谷あり波瀾に満ちている
- ・それは多彩な章で構成されている

「たとえ明日、
地球が終わりであっても、
私はリンゴの樹を植える」

—M.ルター

柳田さんはパワーポイントで示しながら、会場いっぱいの聴衆に、静かに語りかけるように話された。ハンカチで目頭をおさえる人もみられた。

「『死』を暗黙の了解事項として 最期の日々を支える、支え合う」

宅ホスピスケアが広まってきたの

です。その芽生えの1つとして、

89年に肝臓がんが見つかって半年

ほどしか生きられなかつた、40代

の秋山光子さんについてお話ししま

す。

その最後は、とても意味あるも

のでした。中学生と小学生のお子

さんがおり、母として妻として、

「家庭で闘病したい」と希望します。

医師は在宅ホスピスケアの草分け

で、往診してくれました。大手食

品会社に勤めていたご主人は、「妻

の最期をより良くする」ために介

護休職を取ります。当時はそんな

休職制度はありませんでしたが、

「復職できなくても妻の最期に寄

り添つほうが大事」という強い思

いで休職を選びます。会社は、こ

の後に介護休職制度を設けます。

会社を動かしたんですね。

また看護学校の教師だった妹は、

京都から神奈川のお姉さん宅へ週

に1回通い、こうした介護を期に

自分の人生を変えました。東京で

新しい在宅ケアのあり方を開拓し、

ナイチンゲール賞を受けます。秋

田の高齢のお母さんも上京してき

て、意識が薄れていく娘に「あん

た、意識があるうちに言い遺すべ

きことは言つておきなさい」と促

します。子どもに対しても「意識

がなくなつても耳は聞こえている

んだから、あんたたち、お母さん

に頻繁に声をかけなきやダメよ」と教える。「死」を暗黙の了解事

項として、最期の日々を支え、支

え合う取り組みのはじまりでした。

今、全国各地で、こうした「最

終章を創る人たち」を支える新し

い社会的システムが、多様な形で

展開され始めています。まさに新

しい時代に入ってきたと言えます。

このあたりで、死への問題意識

に関する基調講演を終わりにします。

2019年「ご遺族アンケート」結果

94%の方が「W効果を認めていた

「看取りの道しるべ」としてとても重要・・・・・

「家族の選択の道しるべが、尊厳死協会に入会していることでした。

経験で気づいたことですが、言葉にはできない

感覚的な多くのことが存在していました。」

—そんなリアルな声も届きました。

「ご遺族アンケート」に寄せられた様々な声を紹介します。

妻(62歳)の8年にわたる闘病の、

神奈川県

「ご本人(83歳)の尊厳と
美学への強い意思を
尊重しました」

と医師に言つていただきました。

京都府

心の支えになりました。

神奈川県

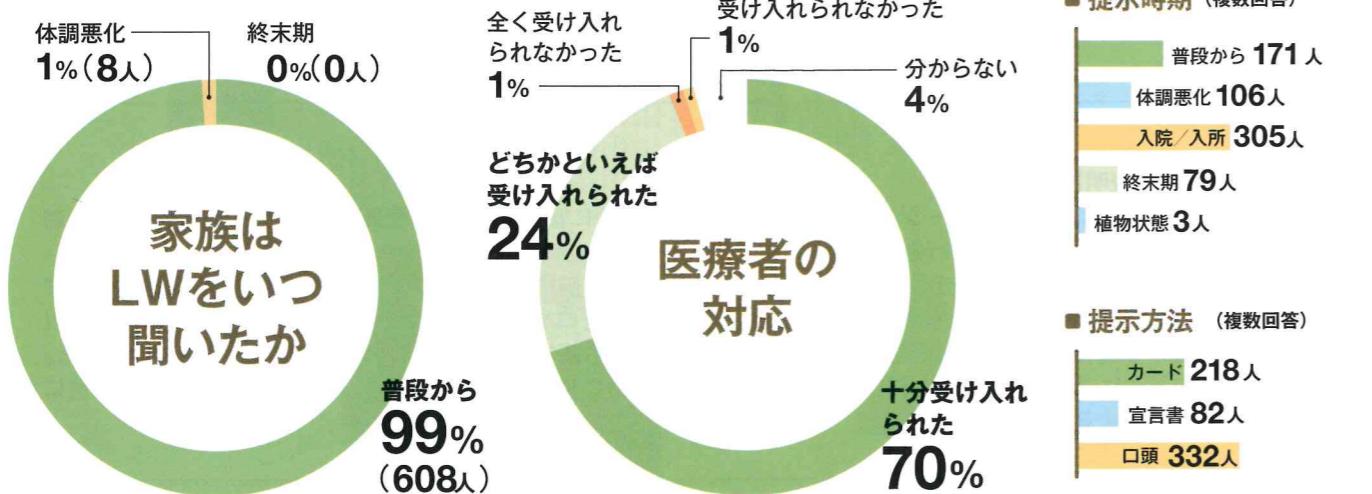
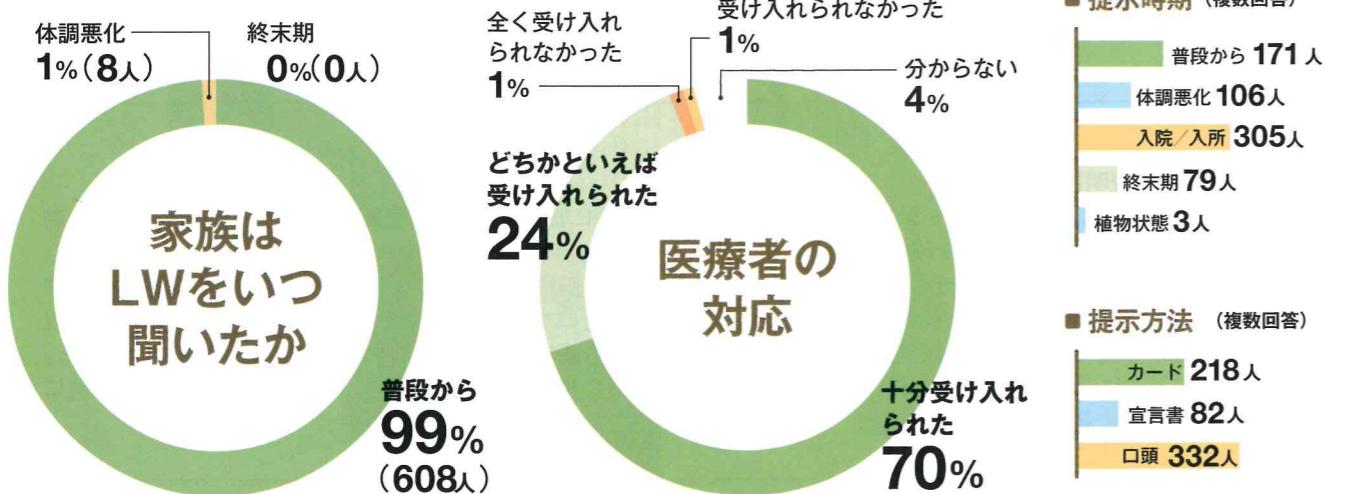
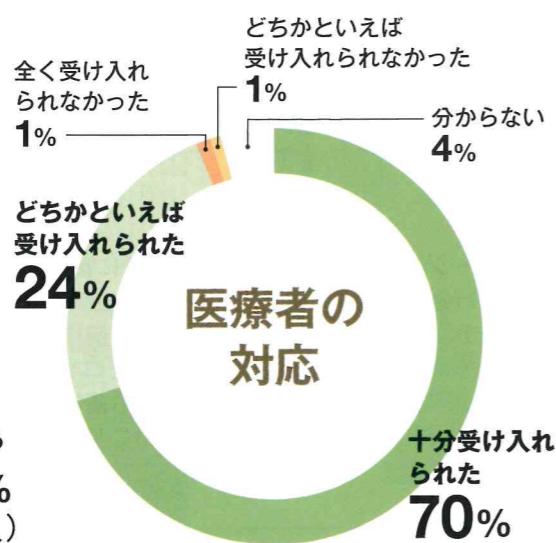
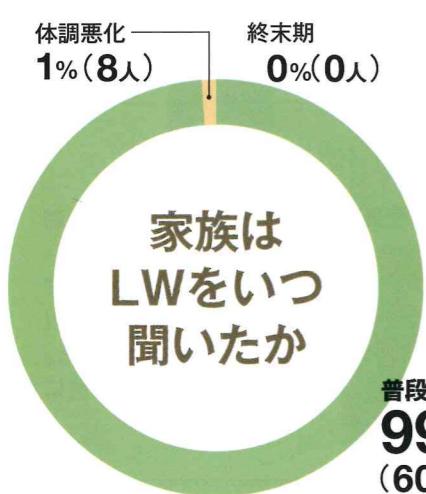
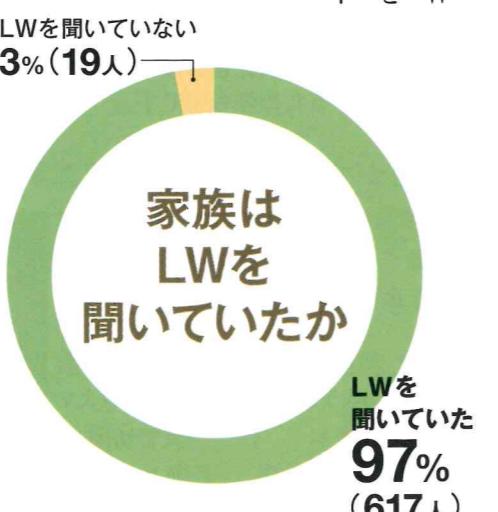
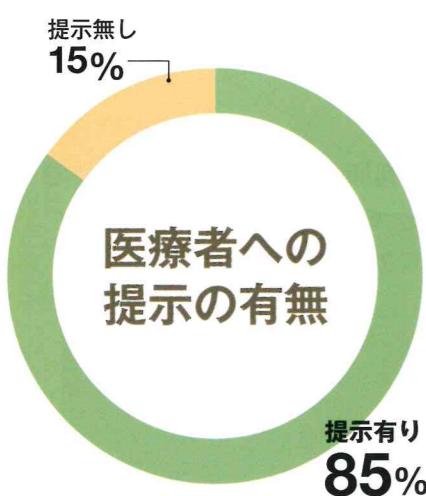
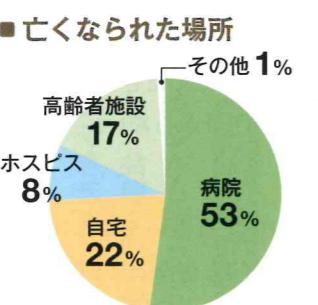
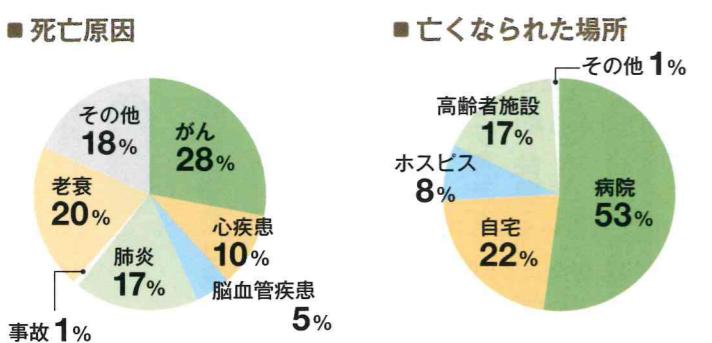
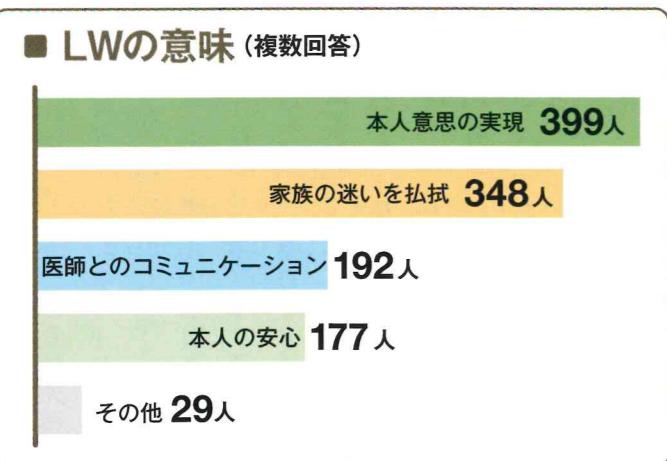
「ご本人(8

い、ということを母（73歳）を亡くして感じました。母が協会の会員でよかったです。会員でなければ、親子、兄弟で揉め事が起きても不思議ではない状況でした。（徳島県）

●肺がんで亡くなつた夫（66歳）は、担当医師から余命を宣告されていたわけではないので、自分が終末期であるという自覚が持ちにくかつたようです。もしかしたらまだ治療の可能性があるのではないかと

いかという思いと、これ以上は治療を受けずに過ごすという思いの間で揺れ動いていたようです。最後はこうしたいと決めていても、その最後がいつなのか、まさに今なのか、を自覚するのは本当に難しいと痛感しました。（大阪府）

●看取りの2週間は選択の連続でした。延命措置の知識はあっても、実際の判断に迷うばかり。お世話になるホームの方、看護師、医師、



「本人の意思を実現できた」が最多

協会では、亡くなられた会員のご遺族に協力していただき、リビング・ウイル（LW）が役立ったかどうかについて、アンケート調査をしています。2019年は640人の方から回答をいただきました。

541人（85%）がLWを医療者に伝えていて、「LWは受け入れられましたか」の質問には「十

二年前からスタートした「LWはご家族にとってどういう意味を持ちましたか」を伺うアンケートも行なっています。

「どちらかといえば受け入れられただと思う」は24%で、合わせて94

%のご遺族がLWの効果を認めています。

夫（86歳）の最後が、何本ものチューブにつながれるような姿ではなくて良かつたと思う一方、本当にこれで良かつたのかとの思いもあります。

自分で良かつたのに」という思いは、いまも消えません。（東京都）

自分が、看取りの道するべとしていました。尊厳死協会の存在でございませんが、看取りの道するべとしてとても重要でした。（神奈川県）

●電話で救急隊員から母（89歳）の処置方法を確認された際に、「助からないならば延命措置をしないでください」と迷いなく答えることができました。本当にいかの確認の電話が5回ほどありました。しかしそれでも後日、それで良かったのかと心が揺れたので、母が協会に入会していたという事実に助けられました。（東京都）

●病院、高齢者施設とともに、父（80歳）のリビング・ウイルの受け入れは難しかったです。「見殺しにするようなことは避けたい、医療従事者としてできない」と言はれました。それでも医師の中に大切でした。看取りのその時、たとえ本人のはつきりとした意思確認が出来ないとしても、本人の意向こそが、関わる全員の納得の選択になりました。そしてその本

家の全員の気持ちの共有がとても大切でした。看取りのその時、たとえ本人のはつきりとした意思確認が出来ないとしても、本人の意向こそが、家族の選択の道の処置方法を確認された際に、「助からないならば延命措置をしないでください」と迷いなく答えることができました。このことは事前にできなった感覚的な多くのことが存在していました。尊厳死協会の存在でございませんが、看取りの道するべとしてとても重要でした。（神奈川県）

●ほとんどの会話のない父娘でしたから、父（83歳）が協会に登録していることは知りませんでした。父の死後整理をしているときによりビング・ウイルと「私の希望表明書」が見つかった次第です。希望表明書の中の、「医師が回復不能と判断した時、私がして欲しくないこと」にすべてチェックがしてあったのを見て、父の気持ちがわかつたと同時に悲しい思いもしました。死後ではありましたが、父の気持ちを教えてください、ありがとうございました。（福岡県）

LWのひろば

息子に別れの添い寝

高田力男 88歳 石川県

私も妻も未生まれの88歳です。妻は小柄な体格でしたが、家の中で和裁の仕立てを50年近くして家計を助けてくれました。長男と長女は結婚して、少し離れた町に住んでいます。妻は和裁を止めてから体が悪くなり、足腰の手術で入退院を繰り返し、5年前からは一人では歩けなくなりました。私は慣れない家事や介護に夢中の毎日でした。

そんな時、長男が体の痛みを訴え、2、3の町医者で診察を受けましたが「何も悪いところは無い」と言われ、痛みを抑えて働いていましたが、その年の大晦日に体調を崩し、「がんの悪化」とのことで緊急入院。麻酔と痛み止めで話すこともできないまま、2週間後に旅立ってしまいました。一人息子、51年の人生。年老いた父と母、長女ら、そして残された嫁と孫2人で、夜の病院を出て自宅に向かいました。日中はあんなに晴れていた冬空でしたのに、5分も経たないうちに猛吹雪になり、ふつう20分ほどの道を2時間もかかって

自宅にたどり着きました。安らかに眠る息子に別れの添い寝をする我が身のつらさ……。今は施設に入所している妻を見舞うたび、妻の名を呼びつつ、「どうしたのかね」と窓の外を眺めながら、ボソリと漏らします。あの大勢の人たちと一緒に野辺送りをしたのを忘れてしまったのでしょうか。

昨年の暮れ、長男の3回忌を済ませました。それまであまり振り向かなかつた先祖の仏壇に向かって、私は今、おのれを責めて合掌を忘れない日々です。

池内紀氏を悼む

宮崎典子 80歳 神奈川県

軽妙洒脱なエッセイの書き手でもあった、ドイツ文学者の池内紀氏が亡くなりました。氏の『すごいトヨリBOOK』は特に面白く読ませていただきました。氏は、ご夫妻で日本尊厳死協会の会員でもあります。文中に「男と女の違いはあるが、80歳頃になり、人生下り坂を感じたら、楽しく生きよう!」とありました。そして「それには知性と自分の

内部を見る力が必要だ」とも。

私は80歳になりますが、先日、ある会合に出席しましたら、女性の3分の1は杖にすがる生活でした。私自身は今のところ支障はありませんが、それは自宅が急坂の多い地形で、長年慣らされたこともあるし、フィットネス・クラブでエアロビクスなどいろいろしているからかもしれません。

私は身体の変化に敏感です。それは非常に憶病だからで、少しでも具合が悪くなると、病院へ行つてMRIや胃カメラなど各種の検査をしてもらいます。その結果、わかつたことは、各器官が年相応に古びてきているということでした。まあ、「未病」のうちに身体の状況が把握できたということでもあるでしょうが、要するに「叩けば埃が出る」身体ということがあります。80歳のこんな生き方ですが、「いいのか否か」と考えているこの頃です。

「認知症検査」を受けての想い

匿名希望 82歳 男性

先日、市役所から「認知症検査(第



1段階)受診票」なるものが届きました。その表題に「おつ」と驚きました。

それで、最近の「物忘れ度」からして、これは是非とも受けでおかなけれど、近くの医院に足を運びました。看護婦さんが、「生年月日、今日の日付と曜日、今いる医院の名

会報への感想などいくつか

匿名希望 70代 男性

いつも楽しみに読ませていただきている会報や協会に、思うところや注文を少し書きたいと思います。

前号の「ひろば」にあつた「会員数減少の分析を」の投稿に同感で、1段階)受診票」なるものが届きました。その表題に「おつ」と驚きました。それで、最近の「物忘れ度」からして、これは是非とも受けでおかなけれど、近くの医院に足を運びました。看護婦さんが、「生年月日、今日の日付と曜日、今いる医院の名

前、今朝の食事内容、現総理の名前などを聞いてきます。続いて、目の前に鉛筆、スプーン、鍵、腕時計、紐の5点を並べ、数秒見せてから伏せて、「今見たものの名前を順に言いまさい」等の質問をし、それに答えます。

あまりに幼稚な(?)質問に、「なるほど、だから認知症検査なんだろ」と妙な納得をしましたが、認知症患者に対して、世間はそんな認識や見方なんだろうなあ、などと思つたものでした。

結果は「異状なし」でひとまず安心しましたが、昨今の物忘れ頻度などを考えると、今後の生活において、さらに緊張度を増していくないと、早晚、先の幼稚な質問に答えられるなくなるのでは、と戦々恐々の思いで帰宅しました。

編集部より

●投稿の募集 テーマは「私の入会動機」「一人暮らしの日々」など何でもけっこうです。600字以内で。掲載(写真含む)の方には図書カードを差し上げます。手紙またはファックス(03-3818-6562)、メール(info@songenshi-kyokai.com)で。

●写真の募集 7月号に相応しい写真を。数年前の撮影も可。データをメール送信(アドレスは同上)、またはプリントを郵送してください。いずれも、協会本部会報編集部宛に、「ひろば投稿」と明記のこと。締め切りは5月15日です。

※ホームページにも掲載させていただきますので、ご了承ください。

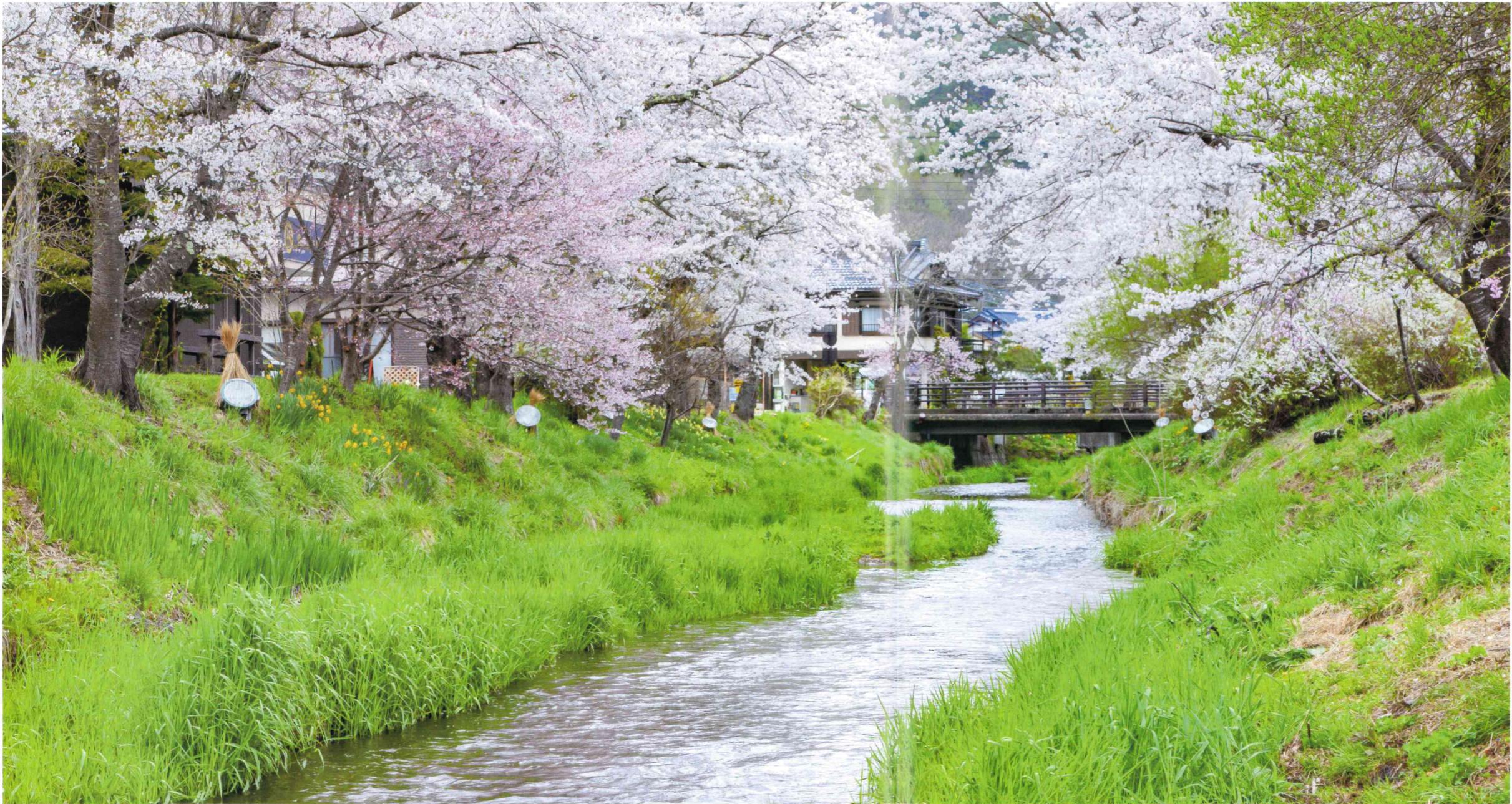
四季の歌

—その風景と背景

第十二回

春の小川

●文部省唱歌



春の小川はさらさら流る。
岸のすみれやれんげの花に、
においめでたく色うつくしく
咲けよ咲けよとささやく如く。

春の小川はさらさら流る。
蝦やめだかや小鮎の群に、
今日も一日ひなたに出でて
遊べ遊べとささやく如く。

春の小川はさらさら流る。
歌の上手よいとしき子ども、
声をそろえて小川の歌を
うたえうたえとささやく如く。

(『尋常小学唱歌(四)』大元・12より)

右の歌詞は、大正元(1912)年に4年生用の音楽教科書に載つたもの。その後、歌詞は2回、変更され、今の「…さらさら行くよ」「すがたやさしく色うつくしく」「…ささやきながら」などになっている。「へうさぎ追いしかの山…」の「故郷」の黄金コンビ、高野辰之の作詞・岡野貞一の作曲とされ、100年以上にわたって、日本の春を代表する唱歌として世代を超えて歌い継がれてきた。

さて、「スミレやレンゲ、小鮎やメダカ」が情景豊かに歌われている、この小川はどこでしようか? テレビのクイズなどでもよく取り上げられるように、答えは「東京・渋谷区の河骨川」とされている。小田急線の線路沿いに「春の小川」の歌碑も立つ。当時、高野が渋谷区代々木に居を構えていたから、というのが理由だが、高野の出身地である北信州の長野県中野市あたりが舞台ではないかとの説もある。

東北支部

022-217-0081 tohoku@songenshi-kyokai.com

第9回 春の公開講演会
「在宅医療」日程○ 5月24日(日) 午後1時半～3時45分
会場○ 仙台市福祉プラザ「ふれあいホール」
(地下鉄南北線五橋駅から徒歩3分)挨拶 「仙台市の在宅医療とリビング・ウイル」
(阿見孝雄・支部長)

講演1 「在宅医療」の実際

講師○ 市原利晃

(秋田市・秋田往診
クリニック院長
尊厳死協会支部理事)講演2 「あなたなら、どのような最期を
どこで迎えたいですか」

講師○ 今野まゆみ

(仙台市・
ホームホスピス
にじいろのいえ代表)

定員○ 先着300人(無料)

お問い合わせは東北支部へ。

第36回「仙台駅横
リビング・ウイル 交流サロン」

日程○ 4月17日(金) 午後2時～3時半

会場○ 「せんだいアエル」6階 特別会議室
(JR仙台駅西口 徒歩3分)テーマ「“人生会議”を談義する—
その期待と課題」

閉会後に、個別の「ご相談タイム」を15分ほど設けます。元支部顧問(医師)、支部役員への個人的なご相談も、お気軽に、どうぞ。お説明合って、どなたでもご参加ください。参加費無料。

リビング・ウイル交流サロンin盛岡

日程○ 5月29日(金) 午後2時～3時半

会場○ 「aiinaアイーナ」7階 702号室
(JR盛岡駅西口 徒歩4分)テーマ「“人生会議”と尊厳死—
リビング・ウイルこそ基本」

定員○ 40人(無料)

お説明合って、どなたでもご参加ください。閉会後に、「ご相談タイム」を15分ほど設けます。支部役員への個人的なご相談やご質問も、お気軽に、どうぞ。

東北支部 活動報告

地方こそ「在宅医療」

仙台地域の「在宅療養支援診療所」の割合は、全国14ある政令指定都市では14位。つまり、ビリです。では仙台市の「在宅で最期を迎える方」の比率はどうでしょうか。なんと、政令指定都市のトップクラスです。全国で約6割の方が在宅で最期を迎えると希望していますが、仙台地域では17.7%の方が自宅で最期を迎えています。全国の平均は13%。仙台では、およそ三人に一人が自分の願いが適った人生の締めくくりになっているというわけです。

この不思議な理由について仙台市の担当の方に尋ねたところ、「数は少ないが、一療養所あたりの看取り者数が多い」「受け入れ診療所が専門化し内容が充実」「在宅医療を支える介護を含めた組織の充実と連携」「病気の予防と健康診断(※筆者注 全国に先駆けた集団レントゲン検診など)に力を入れてきた歴史と伝統」「つまりは“仙台の文化”ともいえましょうか…」。

このような答えが返ってきました。「在宅医療」を始めから無理と考えずに、かかりつけの医師や地域包括支援センターなどに、まずは自分の希望を話してみましょう。躊躇や遠慮は禁物です。

仙台市だけではありません。昨年の「日本リビング・ウイル研究会東北地方会」では、岩手県北上市の『わたしのきぼうノート』を核とする、全国的にも先進的な活動の実践例が紹介されました。みんなで、人生の心づもりを考えましょうと、行政機関や医療・介護施設、そして町内会をはじめとする地域の住民の誰でもが、自発的に参加できる取り組みの実施例です。

地方の暮らしは、大都市部に比べ、お互いの顔が見えやすい身近な関係です。それだけに、声を出せば、希望を伝えれば、自分や家族の共通の思いや願いが、地域では実現する可能性が高いともいえます。一人で、あるいは家族だけで抱え込まないで、かかりつけ医や地域包括ケア支援センター、市町村の担当課などに希望を伝えてみて下さい。

今回の「春の公開講演会『在宅医療』」では、全国注目の実践例に懸命に取り組む当事者の専門家から詳しく話をうかがえるまたとない機会と思っています。

(支部長 阿見孝雄)

会員になってもLWの勉強は続きます ぜひご参加を

新型コロナウイルスの感染拡大で、支部の催し物の開催が中止になる場合がござりますので、事前に各支部にお問い合わせくださいよう、お願ひいたします。

北海道支部

011-736-0290 hokkaido@songenshi-kyokai.com

市民公開講演会in札幌

日程○ 5月29日(金) 午後1時半～

会場○ 札幌エルプラザ 3階ホール
札幌市北区北8条西3丁目テーマ「在宅緩和ケア医が皆さんに
お伝えしたいこと」講師○ 藤原葉子(医療法人徳洲会
ホームケアクリニック札幌院長)

定員○ 300人(無料、予約不要)

お問い合わせは北海道支部へ。

旭川上川地区懇話会

日程○ 5月19日(火) 午後7時～8時半

会場○ 旭川市民活動交流センター CoCoDe2階会議
・研修室①②(旭川市宮前1条3丁目3番30号)

テーマ「遺言(いごん)・遺言(ゆいごん)について」

講師○ 佐々木 啓(行政書士KEI法務事務所)

定員○ 50人(無料、要予約)

お問い合わせは、旭川上川地区懇話会事務局

小規模多機能型介護施設グレイス(担当・木林)

0166-34-0488 Fax0166-34-0499

info@grace-asahikawa.net

※5月15日までに、電話、ファックス、メールで申し込んでください。

尊厳死協会の「人生会議」

日程○ 5月19日(火) 10:00～12:00

会場○ 札幌エルプラザ4階 大研修室C(札幌市北区
北8条西3丁目) JR札幌駅北口近く

テーマ「第12回 終末期の栄養、水分補給」

定員○ 先着30人(無料・予約不要)

※テーマに変更がある場合がございます。お問い合わせは北海道支部へ。

関西支部

06-4866-6365 kansai@songenshi-kyokai.com

第5回
関西リビング・ウイル研究会

日程○ 7月11日(土) 午後1時半～4時

会場○ JEC日本研修センター江坂
5階大会議室
地下鉄御堂筋線江坂駅から徒歩1分

テーマ「海外の終末期事情

～各国のリビング・ウイル、
安楽死法から日本を顧みる～(仮)

講師○ 支部理事

オブザーバー○長尾和宏

(尊厳死協会副理事長、医師)

定員○ 200人(無料、申し込みは関西支部へ)

サロン交流会

日程○ 6月2日(火) 午後1時半～3時半

会場○ 関西支部

テーマ「人生会議を、一緒に体験しませんか?」
～簡単な紹介、記入、話し合い～

講師○ 小澤和夫(支部顧問)

定員○ 14人(無料、申込みは関西支部へ)

リビング・ウイルサロン

新大阪にある関西支部の事務所で、リビング・ウイルや尊厳死のことなどを語り合いましょう。気軽におしゃべりに来てください。

日程○毎月第2、4火曜日。午後1時～4時
4月14日、28日。5月12日、26日、
6月9日、23日。

東海北陸支部

☎ 052-481-6501 ✉ tokai@songenshi-kyokai.com

リビング・ウイル懇話会in熱海

日程○ 4月12日(日) 午後1時半～4時
(受付は1時～)
会場○ 起雲閣・音楽サロン(熱海市昭和町4-2)
JR熱海駅から徒歩20分。熱海駅から
バスで「起雲閣前」下車すぐ
テーマ「本当に知りたかったACP
～人と社会が生きる人生会議～」
講師○ 大河内章三
(居宅介護支援事業所ケアマネジャー)
定員○ 150人(無料、申込不要)

リビング・ウイル懇話会in金沢

日程○ 6月7日(日) 午後2時～4時半
(受付は1時半～)
会場○ 金沢市文化ホール2階大会議室
(金沢市高岡町15-1)
JR金沢駅からバス15分「南町・尾山神社」
下車すぐ
※会場駐車場は利用できませんので、公共交通機
関をご利用ください。
テーマ「最期まで笑顔で生きられる街を
創るために～在宅医が考えたこと」
講師○ 良雪 雅(支部理事、三重県松阪市・
いおうじ応急クリニック院長)
定員○ 80人(無料、申込不要)

地域サロンへのお誘い

日程○ 4月28日(火)、6月23日(火)。
いずれも午後1時半～3時
会場○ 名古屋市中村区の青木記念ホール
地下鉄東山線中村公園駅から徒歩5分
人生の最終段階での医療、在宅介護などを語り合
いませんか。会員以外の方も参加いただけます。
ぜひお誘い合ってお越しください。希望者は支部
までご連絡を。無料。

医療相談
(通話無料)

0120-979-672

月・水・金曜日
午後1時～5時
(変更あり)

協会本部で、お電話お待ちしております。ご遠慮なく、どうぞ!

病気や気になる症状、特に終末期にかかる不安や悩みについて、相談員(看護師)が
丁寧にお聞きし、皆さま自身が主体的に考えて解決できるように支援しています。

医療相談は、協会が最も重視している会員向けの無料サービスですが、一般の方でもご利用いただけます。
会員・未会員は確認させていただきます。お電話をお待ちしています。

協会宛メール(✉ info@songenshi-kyokai.com)でも受け付けております。

関東甲信越支部

☎ 03-5689-2100 ✉ kantou@songenshi-kyokai.com

東海北陸支部 活動報告

「緩和ケア学び隊」が好評

支部理事の安藤明夫さん(中日新聞編集委員)が主宰する「緩和ケア学び隊」が、好評。大橋洋平さん(海南病院緩和ケア医、「緩和ケア医が、がんになって」筆者)を招いた今年1月28日も、会場の青木記念ホールには定員を上回る30人以上が集まりました。支部の協賛事業の一つです。

安藤さんがかかわりを持つようになったのは2016年。元支部長の故・青木仁子さんから運営の委託を受けました。その後毎月1回、医療関係者を招いて、青木さんや支部理事の伊世利子さんらとともに「闘病の中で奥深く重要なテーマである緩和ケア」の勉強会として開催。青木さんの病状が進んだため2017年、安藤さんが代表を引き継ぎました。

開催日は毎月第1日曜日でしたが、2018年度から隔月の第4火曜日午後に変更。開催は30回以上を数えています。参加費は毎回500円。講師の顔ぶれは、医師(緩和ケア医、在宅診療医、泌尿器科医)、看護師、薬剤師ら専門職と、がん患者、ご家族を看取った方、看取りをテーマに映画をつくった監督など多彩で、支部の啓発活動を補完する貴重な機会となっています。「地域の方が気軽に緩和ケアの勉強ができる場であってほしい、という青木さんの思いを守っています。おもしろくて役に立つ講座を続けていければ」と安藤さんは意欲的に話しています。

(支部長・野嶋庸平)



緩和ケア学び隊で
進行役を務める安
藤支部理事(右)

公開講演会in町田

日程○ 6月6日(土) 午前9時半～11時半
会場○ 町田市文化交流センター(6階ホール)
JR横浜線・小田急線町田駅から徒歩5分
☎ 042-710-6611

テーマ「どうすれば穏やかに旅立てるか」
講師○ 長尾和宏(尊厳死協会副理事長、医師)
定員○ 200人(無料・申込不要)

サロンin橋本

日程○ 4月20日(月) 午後2時～4時
会場○ ソレイユさがみ 第3セミナールーム
(イオン橋本店6階)
JR横浜線・京王相模原線橋本駅から徒歩1分
☎ 042-775-1775

定員○ 24人(無料・申込不要)

サロンin町田

日程○ 5月15日(金) 午後1時半～3時半
会場○ ぽっぽ町田 会議室3
JR横浜線・小田急線町田駅から徒歩5分
☎ 042-723-8770

定員○ 20人(無料・申込不要)

サロンin南大沢

日程○ 5月16日(土) 午後2時～4時
会場○ 南大沢文化会館 第2会議室
京王相模原線南大沢駅から徒歩3分
☎ 042-679-2202

定員○ 36人(無料・申込不要)

サロンin本郷

日程○ 4月17日(金)、25日(土)
5月15日(金)、23日(土)
6月19日(金)、27日(土)
いずれも午後1時半～3時
会場○ 支部事務所 文京区本郷2-27-8
太陽館ビル5階 日本尊厳死協会内
地下鉄丸ノ内線・大江戸線本郷三丁目駅か
らすぐ。参加は無料。電話予約が必要です

関東甲信越支部 活動報告

初の受容医懇談会を開催

2月15日(土)、支部としては初の試みとして「リビング・ウイル受容医懇談会」と銘打った研究会&勉強会を、都内の大森医師会館で開催しました。

「新型コロナウイルス騒動」の真っ最中でしたが、22人の熱心な医師のご参加をいただきました。総合病院勤務、在宅医療、救急病棟担当など、それぞれ立場の違いも踏まえて、様々な意見や苦心あるいは悩みなどを述べ合う熱いディスカッションが行われました。講演名と講演者を以下に記します。

「終末期医療について考える—救急医療の現場から—」(本多満・東邦大学医療センター大森病院救急救命センター診療部長)・「ACPを考える」(岡崎史子・慈恵医科大学教育センター講師、支部理事)・「訪問診療に必要な事前指示の確認」(伊藤嘉晃・大森山王病院院長)・「在宅と外来のはざまで」(杉浦敏之・杉浦医院院長、支部理事)・「人生の最終段階に患者の意向を医療にどう活かすのか?」(鈴木央・鈴木内科医院院長、支部理事)。

タイトルだけでは、中身がわかりにくいかと思いますが、皆さんが医療現場で日頃感じていることを素直に語っていただけたように思いました。運営面などでご協力いただいた大森医師会に感謝申し上げます。



地域のみなさんへ

リビング・ウイル「出前講座」はいかがですか

- ご依頼により講師を派遣します
- 会場のご用意をお願いします
- お問い合わせは支部までどうぞ

一般社団法人 終活サポート協会主催 懇談会

日程○ 4月18日(土)午後1時30分～
会場○ 松山市(株)リンク2階

尊厳死活動指向先開拓の一環として、県内の公民館・介護関連施設や考えと同じとする他団体などへの案内状に呼応して出前講座の要請を受けました。LWの必要性がACPと相まって広く市民に受け入れられる内容で、支部愛媛事務所が対応します。

日本リビングウイル研究会・ 四国地方会

今年度の日本LW研究会・四国地方会は9月27日(日)徳島市「四国大学交流プラザ」で開催決定。詳細は7月号会報誌でご案内いたします。

お知らせ

四国支部の尊厳死普及活動は、愛媛・香川・徳島・高知の各県事務所が主体となり地域に密着した内容で実施しています。

講演会・懇談会やその他活動について、居住地の下記事務所にお気軽にお問い合わせください。

・日本尊厳死協会四国支部・愛媛
〒791-0295 愛媛県東温市志津川
愛媛大学医学部臨床腫瘍学内
事務長：薬師神芳洋
TEL：089-960-5969
e-mail:oncology@m.ehime-u.ac.jp

・日本尊厳死協会四国支部・香川
〒760-0076 香川県高松市観光町538-2
あさひクリニック内
事務長：鶴見大樹
TEL：087-831-0280 FAX：087-831-0285
e-mail:info@asahi-cl.jp

・日本尊厳死協会四国支部・徳島
〒779-3208 徳島県名西郡石井町高原字中島411
事務長：片岡秀雄
TEL：090-1328-6116
e-mail:kataoka.hideo@gmail.com

・日本尊厳死協会四国支部・高知
〒781-2120 高知県吾川郡いの町枝川847-9
事務長：村岡高光
TEL/FAX：088-892-4791
e-mail:tutuwoaisu@ma.pikara.ne.jp

四国支部 活動報告

普及活動や講演会に活気

2月14日(金)、松山市男女共同参画推進センター・コムズ主催の20周年記念の分科会で、尊厳死の普及活動を実施しました。

野元正弘支部長が「人生会議」について解説、LWの必要性を説きました。人生100年時代での自分の役割として、次の世代によりメッセージを送れるよう、健やかに穏やかに過ごし、逝くときに後悔しない生き方を話しました。次に、行政書士の小西光子さんが、後見人制度と課題、これから終活を、会場と意見交換しながら事例をあげて話し、認知症だけでなく、さまざまな場面で活用できる制度であることを学びました。

回収したアンケート(48人中33人)では、尊厳死協会を「知っている・いない」は半々。4分の3が非会員ということなどを考えると、協会の認知度はまだまだ高くなる可能性があると感じました。自由記述では、「改めて人生会議を知ることができた」「成年後見人制度をよく知らなかつた。もっと知りたい」となどの回答がありました。

2月16日(日)には、「一般公開講演会」を高知市で開催しました。第1部では、北村龍彦・高知代表(近森病院理事)が「人生会議とは…話し合うことから始めましょう」をテーマに、人生を生き抜くこと、人生会議の必要性について、人生の終末期のタイプなどについて説明を行いました。

第2部では、小松倫子・支部高知役員が「事例を通して一緒に考えてみましょう、尊厳を持って生きるために」のテーマで、実際に経験した事例を通して、参加者のみなさんと一緒に考えました。配布した資料「今しておきたいこと、大切な心の準備」の「希望、思い」に関して考えもらい、その希望を、かかわりのある方(家族や医師など)にきちんと伝えているかどうか、を記入し発表し、参加者と講師が質疑応答して理解を深めました。



「終活LWサロン」のご案内

昨年11月30日、「いい看取りの日」に東京で開催された第8回LW研究会「物語としての人生会議(ACP) — リビング・ウイルを入口に—」のビデオ上映会を主としたサロンの開催を、「終活LWサロン」と題した小規模なイベントとして計画しています。

大規模なイベントとしては、今年の後半に広島市で公開講演会の開催を企画検討していますが、一方で「終活LWサロン」は、中国地方圏内の市町村へ広く、尊厳死協会の持つ情報を会員の方や一般の方へ、出来るだけお近くまでお届けすべく地方行脚をイメージしています。そのため会場は小規模となり20名程度の定員を想定しております。開催日や実施回数、開催地など限定することになりますが、できるだけこれまでイベントを開催していないような市町村、車での移動が主となる中山間地域をも含めてサロンの開催を予定しております。

中国地方支部「終活LWサロン」の第一弾となる5月・6月開催予定は以下。

- ① 5月16日(土)、島根県松江市の松江テルサ(松江市朝日町478-18)4階研修室2、午後2時～3時半、定員20人。
- ② 5月17日(日)、鳥取県立倉吉体育文化会館(倉吉市山根529-2)1階教養室2、午後1時～2時半、定員30人。
- ③ 5月31日(日)、山口県下関市の下関生涯学習プラザ(下関市細江町3-1-1)3階視聴覚室、午後1時半～3時、定員20人。
- ④ 6月1日(月)、山口県宇部市の多世代ふれあいセンター(宇部市琴芝町2-4-25)3階第2講座室、午後1時～2時半、定員20人。
- ⑤ 6月7日(日)、島根県浜田市の石央文化ホール(浜田市黒川町4175番地)3階302会議室、午後2時～3時半、定員15人。

だれでも参加可能で、無料。申し込みは、氏名、同伴者がいる場合は人数、連絡先の3項目を中国地方支部事務局へ電話またはFAXでお願いします。

中国地方支部 活動報告

「出前講座」いろいろ

昨年10月から11月にかけて「出前講座」として、おやじの会(高齢男性の会)や町内会レベルの老人会、さらに地区の内科医師会総会の会場などで、協会の概要や趣意、人生会議(ACP)やリビング・ウイルなどについて、30分～1時間ほど、お話をさせていただきました。

出前講座の形態などはさまざまですが、中には、動画や資料などを交じえて濃密に1時間半もお話をさせていただくこともあります。前述のおやじの会では、協会が発行している会報を資料として用い、協会活動の内容、リビング・ウイルやLW受容協力医の説明をさせていただきました。終活ばかりですが、自分一人で決め、取り組めるものでもないので、地域や友人、家族とともに考え方行動すると良い結果につながることを伝えさせていただきました。出前講座後の懇親会では、「トン汁」をご馳走になりました。

5人程度の少人数でもかまいませんので、遠慮なく中国地方支部までお声かけください。



●住所を変更された場合はお知らせください

施設などに移って住所を変更される方が多くいらっしゃいます。会報や年会費の請求書などが戻ってきてしまいますので、住所を変更された場合は、すぐに協会に電話かFAX、メールでご連絡ください。3年間、年会費の支払いが滞りますと「自動退会」となってしまいますので、お気をつけくださいますようお願いいたします。

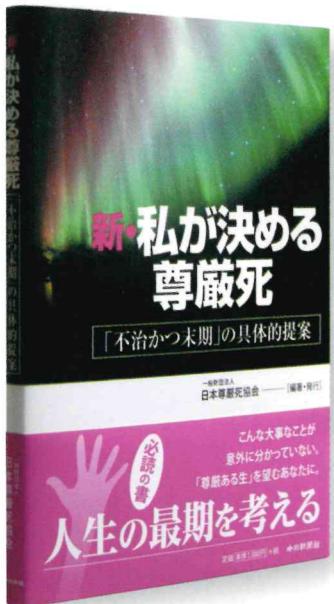
ご寄付ありがとうございました

ご寄付いただきまして誠にありがとうございました。対象期間は、令和元年12月1日から令和2年2月29日までにご寄付いただいた方々です。職員一同深く感謝します。普及啓発事業等に有効に活用させていただきます。

齋藤キヨ	8,000	井上伊公子	3,100	矢形博信	900	匿名・山形県	3,000
小山ヤエ子	2,000	安藤浩行・靜子	5,000	山本幸子	10,000	匿名・千葉県	119,986
櫻井初子	3,000	南部浩・富美子	2,000	丸田道子	1,000	匿名・東京都	10,000
三浦壽雄・牧子	1,620	小堀悦子	1,379	村上聰子	10,000	匿名・東京都	300,000
松本仙太郎・米子	18,000	高橋道子	9,000	藤岡清子	900	匿名・東京都	662,000
大塚定司	10,000	杉原幹男	5,000	松内雪子	2,100	匿名・神奈川県	1,700
三枝愛子	1,000	酒井幸子	8,000	長野眞澄	1,300	匿名・大阪府	30,000
岡田正雄・あゆ	2,000	矢野郁子	10,000	安間ア・美代子	21,680	匿名・兵庫県	100,000
鈴木紀久栄	3,000	西島和子	3,000	三好セツ子	1,158	匿名・福岡県	1,000
齋藤さよ子	20,000	藤田隆彦	10,000	田中優子	10,000	支部扱い	
青木安子	1,500	栗林茂子	5,000	吉野愛子	8,400	千波サカエ	3,000
宮坂圭子	2,870	星月俊典	3,000	匿名・青森県	10,000	渡邊理恵	6,000
松村壽子	2,000	安井春枝	20,000	匿名・宮城県	1,000		

ご寄付は、現金書留、あるいは郵便振替口座「東京00130-6-16468」をご利用下さい。
切手でのご寄付もお受けいたします。いずれの場合も、「お名前」「会員番号」と送金の目的が「寄付」であること。
又、「匿名」希望の場合は、「匿名希望」をお書き添え下さい。

出版案内 日本尊厳死協会がお勧めする必読の書。(書店では扱っておりません)



人生の最期で迷わないために 尊厳死の「不治かつ末期」

専門医が病態ごとに「不治かつ末期」を分かりやすく説明しています。あなたの「？」に答えがあります。

- がんの末期 人工的な栄養・水分の補給は、かえって苦しみを増す?
- 持続的植物状態 延命措置の事前意思表示がない場合、医師や家族はどうしたら?
- 腎不全 「余命」宣告後に、医師から透析療法を勧められたら?
- 救急医療 日本救急医学会が示す「終末期」の判断とは?
- 認知症 「不治かつ末期」をどう考える、延命措置は?
- 老衰 天寿を全うする「老衰死」。平穏な死を妨げるものは何か?

自分の終末期にどのような医療を望むのか、望まないのか。
医師たちは「具体的な意思表示が大切」と訴えています。

新・私が決める尊厳死 「不治かつ末期」の具体的提案

編著・発行 日本尊厳死協会 発売 中日新聞社

1100円(税・送料込)。書籍名、お名前、住所、会員の方は会員番号を明記。

代金を現金書留または定額小為替か切手相当額を同封して協会事務局(〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル501)宛に。

LWの受容協力医師

第99報

2019年12月～2020年2月の間に
新しく登録なされた医師の方々です。

[会員医師は会とする]

医療施設名	診療科	医師名(敬称略)	施設所在地	電話
ふくしま在宅緩和ケアクリニック	在宅	鈴木 雅夫	福島県福島市郷野目字宝来町21-3	024-544-6988
ふくしま在宅緩和ケアクリニック	在宅	橋本 孝太郎	福島県福島市郷野目字宝来町21-3	024-544-6988
つるみクローバークリニック	内・神内	関口 健志	神奈川県横浜市鶴見区下末吉6-3-25-102	045-572-1900
葉山ハートセンター	内	前田 希世子	神奈川県三浦郡葉山町下山口1898-1	046-875-1717
ドクターゴン鎌倉診療所	内	千葉 晴子	神奈川県鎌倉市笛田4-25-2	0467-32-5230
本多記念青野クリニック	内・在宅	青野 治朗	神奈川県小田原市本町1-4-4 三宅本町ビル1F	0465-46-6440
東松山在宅診療所	内・ペインクリニック内	中尾 晃	埼玉県東松山市神明町2-16-15 フレルド・ドルフ1-B	0493-81-6375
船橋ひのわクリニック	総合診療・在宅	土戸 啓史	千葉県船橋市海神町東1-1387-102	047-436-8311
古江クリニック	内	古江 俊昭	広島県広島市東区戸坂中町3-12	082-229-0331
及川病院	緩・心内	稻光 哲明	福岡県福岡市中央区平尾2-21-16	092-522-5411
梶原病院	内	梶原 慎	大分県中津市中殿町3-29-8	0979-22-2535
村上記念病院	内	村上 玄兒	大分県中津市諸町1799	0979-23-3333
松永クリニック	脳外、脳内、内	津末 輝彦	大分県中津市大字永添933-1	0979-23-7182
中津市立中津市民病院	呼外	福山 康朗	大分県中津市大字下池永173	0979-22-2480
中津胃腸病院	外・緩	深野 昌宏	大分県中津市永添510	0979-24-1632
諫山整形外科医院	整	諫山 哲郎	大分県別府市南莊園町20組	0977-23-1380
平井整形外科医院	整・リウ・リハ	平井 良昌	大分県別府市田の湯町9-16	0977-24-1511
向井病院	精	向井 正樹	大分県別府市大字南立石241-15	0977-23-0241
河野小児科医院	小	河野 幸治	大分県別府市石垣西7-8-10	0977-22-4429
牧野リウマチ整形外科クリニック	整・リハ	牧野 建紀	大分県別府市船小路町2番36号	0977-25-2121
平良クリニック	内・整	平良 朝秀	沖縄県那覇市松尾2-16-43	098-863-7110
川平病院	内	川平 昌秀	沖縄県那覇市古波蔵3-5-25	098-836-1101
沖縄第一病院	内	宮城 信雄	沖縄県島尻郡南風原町字兼城642-1	098-888-1151
稻福内科医院	内	稻福 徹也	沖縄県浦添市経塚633	098-988-4556
北中城若松病院	内	涌波 淳子	沖縄県中頭郡北中城村字大城311	098-935-2277
北中城若松病院	内	新城 かずさ	沖縄県中頭郡北中城村字大城311	098-935-2277
北中城若松病院	内	當銘 正彦	沖縄県中頭郡北中城村字大城311	098-935-2277
ゆいクリニック	産婦	島袋 史	沖縄県沖縄市登川2444番地3	098-989-3801
大嶺医院	内	大嶺 雅亮	沖縄県うるま市字田場1417番地	098-973-1125
ドクターゴン診療所	外・内	泰川 恵吾	沖縄県宮古島市上野字宮国746-17	0980-76-2788
上原内科医院	内・小	上原 秀政	沖縄県石垣市宇登野城548-4	0980-88-7068
国立療養所沖縄愛樂園	内・外	野村 謙	沖縄県名護市済井出1192	0980-52-8331

【受容協力医師についてのご案内】

全国に2,000人ほど登録しているLW受容協力医師のお名前は、協会各支部のホームページ(HP)で閲覧することができます。各支部HPへのアクセスは本部のHPからのリンクをご利用ください。**会員専用認証パスワード**は「jsdd(半角小文字)」です。紙に印刷した受容協力医師リストをご希望の方は、各支部にご連絡ください。アクセスが郵送でお送りいたします。

● LW受容協力医師をご推薦ください

会員のみなさまの不安として、周辺に受容協力医師がいないことがあるかと思います。そうした不安を少しでも和らげるため、本部では、みなさまのかかりつけ医師をご紹介いただければ、その医師に「LW受容協力医師の登録」をお願いします。会員の方の①お名前、②会員番号、③お電話番号、④かかりつけ医師のお名前(病院名)・住所・お電話番号を、本部「受容協力医師担当」まで、電話、ハガキ、手紙、FAXまたはメールでお知らせください。

●本部

〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-8
太陽館ビル501

TEL 03-3818-6563
FAX 03-3818-6562

メール
info@songensi-kyokai.com

ホームページ
<https://www.songensi-kyokai.com/>
郵便振替口座
東京00130-6-16468

●北海道支部

〒060-0807
札幌市北区北7条西2丁目6
371山京ビル801
TEL 011-736-0290
FAX 011-299-3186

●東北支部

〒980-0811
仙台市青葉区一番町1-12-39
旭開発第2ビル703号室
TEL 022-217-0081
FAX 022-217-0082

●関東甲信越支部

〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-8
太陽館ビル501
TEL 03-5689-2100
FAX 03-5689-2141

●東海北陸支部

〒453-0832
名古屋市中村区乾出町2-7
正和ビル2階
なかむら公園前法律事務所内
TEL 052-481-6501
FAX 052-486-7389

●関西支部

〒532-0003
大阪市淀川区宮原4-1-46
新大阪北ビル702号
TEL 06-4866-6365
FAX 06-4866-6375

●中国地方支部

〒730-0024
広島市中区西平塚町2-10
TEL 082-244-2039
FAX 082-244-2048

●四国支部

〒790-0067
松山市大手町1-8-16
二宮ビル3F B
TEL 089-993-6356
FAX 089-993-6357

●九州支部

〒810-0001
福岡市中央区天神1-16-1
毎日福岡会館5階
TEL&FAX 092-724-6008

各支部HPへのアクセスは
本部HPからのリンクをご利用ください。

リビング・ウィル Living Will

(終末期医療における事前指示書)
(2017年7月改訂)

この指示書は、私の精神が健全な状態にある時に私自身の考えで書いたものであります。

したがって、私の精神が健全な状態にある時に私自身が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成しない限り有効であります。

□私の傷病が、現代の医学では不治の状態であり、既に死が迫っていると診断された場合には、ただ単に死期を引き延ばすためだけの延命措置はお断りいたします。

□ただしこの場合、私の苦痛を和らげるためには、麻薬などの適切な使用により十分な緩和医療を行ってください。

□私が回復不能な遷延性意識障害(持続的植物状態)に陥った時は生命維持措置を取りやめてください。

以上、私の要望を忠実に果たしてくださった方々に深く感謝申し上げるとともに、その方々が私の要望に従ってくださった行為一切の責任は私自身にあることを付記いたします。

リビング・ ウィルの勧め

日本尊厳死協会は、命の終わりが近づいたら延命措置を望まないで、自然の摂理にゆだねて寿命を迎えるご自分の意思を表した「リビング・ウィル」を行、その普及に努めています。現在11万人の方々が「リビング・ウィル」を持ち、安心した日々を送っています。自然のまま寿命を迎えることは、最終的日をよりよく生きることであり、今を健やかに生きることにつながります。お友だちやお知り合いに協会や「リビング・ウィル」のことをお伝えいただければと願っています。

事務局から

会費の自動払込のご案内 希望者はご連絡ください

年会費払い込みには、自動払込制度(金融機関口座から自動引き落とし)があります。利用には諸手続きが必要ですので、ご希望の方は本部事務局までご連絡をお願いします。次の要領で実施しております。なお郵便局窓口では申し込みません。

対象 ▶ ご希望の会員

払込日 ▶ 会費払込該当月の28日(28日が土日祝日の場合は翌営業日に引き落とし)

払込額 ▶ 会費相当額

手数料 ▶ 1回の払込に165円(150円+税)のご負担があります

取扱 ▶ 国内ほとんどの金融機関(信金、信組、金融機関、ゆうちょ銀行、農協含む)

領収書 ▶ 預金通帳の金額摘要欄に協会名を印字。領収書は発行しない

●なお、これまで同様、コンビニや郵便局での振り込みも可能です。会報が緑色のビニール封筒で届きましたら年会費の納入時期です。封筒の表に「年会費払込票在中」と印刷しています。銀行振り込みの場合は会員番号(00を省く)も記入して下さい。なお振込手数料は郵便局窓口が203円、郵便局ATMが152円、コンビニが66円です。



『春、のびる』
今号の1枚

Living Will 目次 —会報2020年4月 No.177—

- 02 「LW研究会」基調講演から
「物語としての人生」
作家 柳田邦男さん
- 04 2019年
「ご遺族アンケート」結果から
- 10 私の希望表明書
- 11 メール配信登録のご案内
- 12 ● LWのひろば
- 14 ● 連載「四季の歌」春の小川
- 16 ● 支部活動・報告
2020春～夏
- 23 連載・電話・メール医療相談から
- 24 LW受容協力医師のリスト
- 25 寄付された方々
- 26 事務局から／編集後記／目次
- 27 終末期医療における事前指示書／
本部・支部一覧

裏表紙

出版案内

協会会員: 10万6903人
(2020年3月3日現在)

次号は、
2020年7月1日発行

※本誌記事の著作権は日本尊厳死協会にあります。
引用、転載に関しましては当協会にご相談ください。

編集後記

●さらさら流れの「春の小川」の季節がめぐつてきました。「四季の歌」の写真から、それぞれ心の中の「春の小川」に思いを馳せているのではないでしょうか。いつもは、そんなのどかな春ですが、今年は様変わり。いつまで

も叙情に浸つてはいられません。新型コロナウイルスの感染拡大という暗雲が覆い、世の中まさに右往左往。ついこの前まで、A I(人工知能)を駆使して社会も未来も完全コントロールするほどだった勢いも、超微小なウイルスに削がれてしまつた感じです。

小中高が一斉休みになり、野球も相撲も観客なし。レジャー施設もスポーツジムも休業し自治体などの催し物も中止に。尊厳死協会各支部の催しについても「開催についての事前確認をお願いします」と呼びかけています。そんな異様な春ですが、「春の小川」は変わりなく、さらさらとのどかに流れています。

(郡司)